



歯並びの異常について



乳幼児期の不正咬合は、成長とともに改善されることがあるので経過観察でよいケースもあれば、話したり食べたりすることや顎の成長に影響を及ぼすケースもあり、適切な時期に治療が必要です。

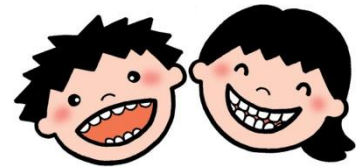
歯並びを悪くする癖

- ① おしゃぶりを長期間使用
- ② 唇を吸う、または、唇を噛む
- ③ 指しゃぶり
- ④ 爪噛み
- ⑤ 口呼吸



- ① 反対咬合（受け口）上下の顎の位置が反対
- ② 叢生 歯がでこぼこの乱杭歯
- ③ 上顎前突（出っ歯）
- ④ 開咬 奥歯は噛んでいるのに前歯が噛み合わない
- ⑤ 交叉咬合 下顎が左右どちらかにずれて噛む

- 交叉咬合は顎関節症や顎変形症につながるので、3歳を過ぎたら専門医の診察を受けましょう。
- 4歳で指しゃぶりがあると上顎前突や開咬、交叉咬合の原因となります。反対咬合は3歳を過ぎたら専門医の診察を受けましょう。
- 口呼吸はアレルギー性鼻炎やアデノイドなど耳鼻科との連携が必要なケースがあります。下の前歯がなかなか抜けないで、隙間がないのに永久歯が生え始めた時は歯科で乳歯を抜いてもらいましょう。



囑託医 島田啓二先生
徳島市藍場町2丁目 島田歯科医院